

第4回 大田区基本構想審議会第3部会 議事要旨

日時	平成 19 年 11 月 30 日 (金) 午後 6 時 ~ 8 時
会場	大田区役所 201 会議室
出席者	伊藤委員 (部会長)、田中委員 (部会長代理)、熊倉委員、中島委員、 奈須委員 (五十音順)

1. 開会

2. 部会長挨拶

3. 配布資料の説明

4. 審議

前回までの専門部会の振り返り

- ・ 前回の意見要旨の「地域での取り組み」において、「防災・放置自転車など地域の主体的な取り組みの成果があがっている」との記述があるが、自治会でのパトロールも充実してきているので (成果があがっている取り組みの中に)「防犯」も加えてよいのではないか。
- ・ 組織に所属していないため行政とのパイプを持たない区民との関係をどう構築するのかということを考えていかなければならない。区では、「自治会・町会にお伝えした」よく言うが、自治会・町会からの情報がすべての区民に浸透していない中で、情報が伝わらない人をどうやって掘り起こすかを真剣に考えたい。
- ・ 区民が議会にも関わりながら区政に参加するのが全体像ではないか。前回の議論では「議会」という言葉がない。課題としてとらえていきたい。
- ・ 議会は、地域力と行政力をつなぐ意味でも重要な役割を持っている。

議論を深めるべき事項及び他の部会からの意見について

【地域活動に関する新しい仕組みづくり】

- ・ 次世代の人から「次は私たちが地域のことをやりましょう」という率直な意見は出てこない。自治会・町会がやるべきこと、行政がやるべきことを区分けして基本的なルールづくりをしたらよいのではないか。自治会・町会だけで次世代を育てていく自信はない。
- ・ 千代田区では、ボランティアをすると介護保険料を減免する制度を始めた。現在の社会は、ボランティアで人が動く社会になっていない。何かメリット

を感じるようにしないとだめ。しかし、福祉の担い手が少なく、放置して
いては暮らしがきちんと支えられない状況においては、このように一歩踏み出
さないといけない。

- ・ 働き方を変えるための努力をし、地域からも声をあげていかなければいけ
ないと思う。

【情報提供のあり方】

- ・ 地域に参加したい人はいるが、情報をどう集めてよいか分からない人が多い
のではないかと。自治会・町会についての情報を講座などで提供する、区で PR
するなど、活動を見せる場を作ることが大切。
- ・ 活動を伝える場をつくっていくことで連携できる仕組みができ、それが一度
できると活動が広がっていくと思う。
- ・ 情報を共有し合える場を設定することが、「コーディネート」という区の役
割の核になる。
- ・ 自治会・町会のことをレクチャーして次の人につないでいく方法は難しい。
たとえば、自治会・町会ごとに綱引き大会などをやって、最後に大田区長杯
を1年かけてやるなど、若い人がイベントとして自治会・町会の仕組みに参
加できるようにしてはどうか。
 - すでにイベントはいっぱいやっている。参加してくれた方がその後、自
治会・町会組織の役員としてつながっていくかどうかは別の問題。
 - 自分たちで力を合わせて勝ち残っていくというイベントをとおして、地
域の中でコミュニケーションの場を作ってはどうかという提案。自治
会・町会の役員としてやってくれるかどうか分からないが、みんなで何
かをするということが大切ではないか。
- ・ 自治会・町会の存在と活動内容が区民にはよく見えないので、そこからスタ
ートすべき。町会に協力してくれる人は100人に1人、1,000人に1人でも
よい。そのための条件整備をやる必要がある。
- ・ 自治会・町会が地域力の大きな要素になっている。難しいかもしれないが、
法的な位置づけを明確にすることが必要。また、特別出張所が地域活動のバ
ックアップの拠点としての役割を果たしていくことが重要。
- ・ 週末だけ区民をしている働き盛りの世代であっても、子どもが小学生の頃
には野球チームのコーチを申し出るなど、自分に関係があることはやっている。
おやじの会の会長が自治会の役員になる事例もある。興味があるものとの接
点をつくることが重要。
- ・ 自治会のイベントに行政の人が出ていると、参加者は行政につながった気が
する。一般の区民は日常で行政職員と話をすることがない。こうした機会を
通じて区民が何を思っているかを把握できるのではないかと。

【インターネットの活用に関する支援】

- ・今の自治会の体制ではホームページを開設することは大変。そこを行政がサポートすればよいのではないか。また、通勤している人が毎朝使うのは駅。駅をもっと情報の発信源として使うようにしてはどうか。
- ・自治会・町会がどれくらい活動しているかを知らない人が多い。地域の情報をインターネットなどで情報発信して共有化することが重要。
- ・ホームページを自治会・町会単位でつくればもっと面白いのではないか。地域に帰ってきて回覧版を見る時間はなくても、職場でホームページを見ることはできるのではないか。地域活動している高齢の方は IT が苦手ということであれば、それを行政がバックアップできる仕組みを作ってはどうか。

【わがまち大田推進協議会の充実】

- ・わがまち大田推進協議会などの宣伝、広報を強化すべき。3 ヶ月に一度は拡大版をやるなど、関心を持ってもらうようにすべき。川崎市では在日外国人の要望を聞く機会を持っている事例もある。自治会・町会の活動内容の PR などを含めて、地域に参加してもらう積極的な働きかけも必要。
- ・区全体のわがまち大田推進協議会の強化はぜひやっていただきたい。現状では地域のわがまちの方が進んでいる。今の仕組みをどうやって活かしていくかをもう一度考えてみるべき。防災訓練はやっているが、それをなぜ地域住民が知らないのかということだ。地域行政センターを巻き込みながらやり方を刷新すべき。アンケートを取るなど、みんなの意見を吸収してやっていく必要がある。

【居住する外国人について】

- ・居住する地域の外国人について、前回の全体会ではあまり意識共有が図られなかった。弱かった。空港の近くの地域は住む場所の候補地として挙がるはず。外国人が住みやすい大田区をどうつくるか。防犯や言葉、教育、結婚、衛生などさまざまな問題があると思うが、区が条件整備することで労働人口を増やし、地域特性をつくることのできるのではないか。逆にそれがうまくできないと、不法滞在を助長することになり、区にとってもよくない。
- ・居住している外国人にとって住みやすいまちとを感じるためには、例えば、区役所に行くに必要な情報がすぐに入手できるようになればいい

2. 地球にやさしいまち

- ・大田区と企業との連携は何かあるか。
 - （事務局）教育委員会では、中学生の職場体験を実施し、就労の意識の向上をやっている。ものづくり企業、商店街などに出向いている。
 - （事務局）福祉では障害者の就労で実習をお願いしている。就職のあつ

- せん、アフターケアなどもやっている。
- (事務局) 運動会などの地域イベントがあるときに、企業にも記念品などを出してもらうなどの協力をいただいている。
- ・ 防犯、防火、災害などに関する連携はあるか。
 - (事務局) 企業と災害時の協定を結んでいる。34 協定で 90 団体の協力を得ることになっている。
 - (事務局) 企業の社会的責任ということで、キャノン、JAL、ANA などに協力をいただいている。ジェット機は多くの CO₂ を排出するため、ANA は緑化事業として地域の方と一緒に木を植える事業を実施しているほか、東糀谷の防災公園の整備においても協力をいただける予定である。
- ・ 地域に対して企業はどうあるべきかという指導はしていないのか。
 - (事務局) 地域の防災訓練に出ていただきたいという PR に努めている。協定の中に平時の防災訓練に出ることが含まれている。区も積極的にはたらきかけていくことは必要だと思っている。
- ・ 地域と企業の情報共有がないと緊急事態に対応できない。区として企業にどこまで求めるのか。その中で区に対して何をしてもらうかを明確にすべき。
- ・ 区民が企業を評価する時代に入っている。CSR (社会的責任) を企業の宣伝で終わらせてはいけない。企業にとってメリットがあることはやるだろうが、社会的責任といえるだけのことをする企業がどれだけあるかを見ていくことが大切。
- ・ CO₂ 排出量の削減を中小企業が達成したら、その親会社が自分の削減実績に入れてもいいということを国が言い始めた。これは大田区にとっても中小企業支援の後押しになると思う。中小企業にも情報提供して、社会的責任を担いやすい状況をつくるのが大切。
- ・ 企業の広報に終わらせず、社会的責任をいかに果たしていただくか。たとえばファンドに出資していただき、地域全体が恩恵を受けることができるようにするなどの工夫が必要。

第3専門部会の基本目標・個別目標について

- ・ 以下の意見を参考に第5回でも引き続き議論を行い、総会に報告する。
- ・ 委員は、次回までにキャッチフレーズ等のあり方を考えてくる。

【地域力について】

- ・ 規範意識を一人ひとりに意識してもらえる要素を盛り込んでいただきたい。
- ・ 「区民一人ひとりが地域をつくる、地域力を担う」ということ。それをぜひ入れてほしい。
- ・ 基本目標の中に「区民一人ひとりの責任」などの要素を入れることも考えられる。

- ・ 「自治会、町会」という表現を地域力として書き込むと、それを主体としたイメージを与えるので控えた方がよい。

【区政体制】

- ・ 区政体制のところは（地域力ではなく）行政、区のあり方を前面にうたった上で、説明文の中で地域力のことを盛り込んだほうが受け入れやすい。
- ・ 「区政体制」の2つ目のキャッチフレーズ「区民に身近で自主性・自立性に富んだ区役所を実現します」は、区民とともにという感じになっていないので、3つ目の「地域力とともに活力ある区政を実現します」がよいと思う。
- ・ 地域と区政体制は分かれている方が分かりやすい。地域力にボランティアのイメージを入れればよい。区政体制は区でつくるもの。
- ・ 区政体制のところでは、区のあり方をもう少しきちんと表現できるとよいのでは。区民の参加、自己決定、透明性、説明責任などのイメージではないか。行政主導ではなく、区民主導ということが表現できるといい。

【地球にやさしいまち】

- ・ 「地球にやさしいまち」では、1つ目の「経済と環境双方において持続可能なまちづくりを実現します」がよい。「経済と環境」ではなく「環境と経済」とした方がよい。持続可能なまちをつくる責任を担う、その具体的な主体は区民であることを言えるとよい。
- ・ 「区政体制」のキャッチフレーズは4つ目「活力ある区政が地域力を支えます」がよい。区がこうやって支えてあげますという印象が伝わってくる。区が何をするかを断言した言い方がよいと思う。

【基本目標】

- ・ 基本目標の例示には、「魅力」という言葉はあるが、「地球にやさしい」という部分あまり出てこない。少し地域力に偏った印象がある。
- ・ 「区民一人ひとりが」を主語にして「 する」のところには地域力、環境、区政の要素を入れる。そこに盛り込めない要素については、個別目標に入れていくことでよいのでは。

5. 区民との意見交換会の際の委員の役割分担について

- ・ 1 / 1 2 は部会長にかわって、田中部会長代理が部会報告を行う。

6. 閉会

以上